

出題分析			
試験時間 120分	配点	数学重点 200点 その他 150点	大問数 5題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕	
<p><b>【概評】</b></p> <p>今年も、記述形式の問題が5題出題された。  例年通り、数学Ⅲの微分や積分を題材にした問題が出題された。また、数学Cの複素数平面に関する問題も出題された。  例年、計算力が問われる内容が多いが、今年も計算力が必要な問題が多かった。日頃の計算練習の量と質が問われる内容だろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	数列 指数・対数 ・指数・対数の計算 ・恒等式	(1)は、対数の計算を確実に実行したい。 (2)は、「必要十分条件を求めよ」と書いてあるので、論理を丁寧に組み立てたい。 (3)は、数値の大小関係を把握する力が問われ、計算力の有無で差が付くだろう。	標準
2	図形と方程式 式と曲線 ・円と接線 ・楕円上の点	(1)は、直角三角形の存在に気付くと素早く処理できる。 (2)は、文字を消去しても、パラメータを利用してよい。(1)ができた者は確実に確保したい問題。	やや易
3	積分 極限 ・定積分の計算 ・極限	(1)は、部分積分を繰り返して進むので、符号の誤りに注意して進めたい。(2)にも影響するので、正解したい。 (2)は、途中で指数・対数の理解の深さが問われる部分があり、差が付きそう。	標準
4	複素数平面 ・円	(1)は、複素数の計算力が問われる。 (2)は、2円の共有点の存在に着目すると考えやすい。また、 $a=1$ のときの議論を忘れないように注意したい。	標準
5	場合の数 ・組合せ	(1)は、有名な考え方がある問題。 (3)は、(1)の意図を考えて、 $a > n$ , $a_n \leq n$ に場合分けすると示しやすい。なお、 $L$ を直接求めることもできるが、時間がかかるだろう。	やや難

合格のための学習法

例年、ⅢC 分野がよく出題されるが、近年、ⅠⅡAB分野からの出題も増えている。したがって、偏りなく対策することが重要である。さらに、計算力が問われる出題が増えているので、計算練習も必要である。また、過去に出題された問題と同じテーマの問題もよく出題されるので、過去問演習も十分に積んでおきたい。

なお、解答用紙とは別に5枚の白紙(B4サイズ)が与えられるので、十分に計算用紙を使い、答案を簡潔にまとめる訓練も大切である。

今年は、①, ②, ③のうち1つか2つは完答したい。その他も前半は確保し、残りのできる部分もかき集めて65%を超えたい。そのため、序盤で計算ミスをするとう致命傷になるだろう。